

※ 消毒槽の効果について

3月のこの欄で踏み込み消毒槽の効果について、消毒薬に効力があっても踏み込み消毒槽には効果がないということを書きました。

ちょうどこの時期にあるJAで消毒薬を無償配布していたらしく、T獣医師を介してお客さんから「どうなの？」という質問がありました。

単純に消毒槽を設置する目的を考えていただければ理解しやすくなるのではと思います。

目的の第一番目は農場の外から病原体を持ち込まないという事です。畜産の消毒は家畜が小さいほど(家禽)それは徹底されていて、大きくなるに従ってルーズになっているというのが現状です。われわれ牛に関わっている畜産が一番ルーズというのが現実です。

私の担当する農場で最近の例でこんな事がありましたので紹介します。

①春のBVDワクチンの一斉接種の時に、私の担当している農場の前にとっても衛生管理の悪い農場のワクチン接種があり、当然？その農場には長靴を洗う設備も無く…？私の担当しているその農場は非常に衛生管理が徹底していて当然農場の周囲はきれいなわけです。農場に到着するなり、複数のワクチン接種担当者がいきなりドロドロの長靴を洗い始めたそうです。普段物静かなお客さんですが、さすがに「まわる順番を考えろ！と、どやしつけた」そうです。どろどろに汚れた長靴を踏み込み消毒槽につけたからと言って消毒の効果はありますか？最低長靴の靴底に汚れが無い状態にしておかなければ、効果は無いという事です。

②近所で集団の呼吸器病が流行っているという話をNOSAIの獣医師から聞いていて、その半月後に私の担当する農場で同じように集団で呼吸器病が発症しました。感染経路は特定できませんが、せめて農場で長靴を履き替えたり、農場に置いているツナギに着替えていたらと思います。基本的に自分の農場を守るのは自分です。是非とも自前の長靴やツナギ(作業着)を用意して農場に出入りする獣医師、授精師に理解してもらって長靴の履き替え、着替えを実施していただければ最低限度の防疫につながるとは思いますがいかがでしょうか？

.....

・ ようやく桜も咲き始めましたね？今年のおオジシギの初鳴きは4/20でした。毎年この欄でオオジシギの事を書いています但し今年はおオジシギの数が少ないように感じています、どうでしょうか？
ウグイスも鳴いていますが、カッコウはまだですね。